



KSKQ どうか No.302

ぽぽんがぽん news



えがお 笑顔あふれ つながりあえる社会へ しゃかい ~ひとりひとりが自分らしく生きてゆけるために~

おくはら 奥原さえ子さんのこと

通信を読んでいたいただいている皆様に、大切に寂しいお知らせをさせていただきます。

奥原さえ子さん（享年51歳）が2025年2月24日にご逝去されました。

奥原さんのことを知っている人も知らない人もいらっしゃると思いますので、彼女の生きたことを少しお伝えさせていただきます。

彼女は、重度訪問介護という支援制度を活用しながら、茨木市のアパートで一人暮らしをされていた重度の知的障害と自閉症のある女性でした。彼女が24時間支援者を活用しながら一人暮らしを始めたのは、約25年ほど前のことです。当時、その数年前にお母様がお亡くなりになり、お父様も体調を崩されたことを期に、入所施設への入所を検討されていました。その際、生前お母様が目指されていた「どんなに重い障害があっても、地域で共に生きる」という思いを引き継ぐために、当時の支援者たち（のちの法人職員）から支援付の一人暮らしを提案させてもらいました。当時は当然制度などありませんでしたので、法人や支援者の持ち出しも多かったですが、毎年障害福祉課と協議を重ね少しずつ支給決定を増やしてもらいながら取り組んできました。現在の障害者権利条約19条で謳われている、他の者と平等の選択の自由をもって地域社会で生活する平等の権利の行使と保障を約25年前に共に取り組み始めたのです。



2024年6月に大きな病気が見つかりました。最初の病院では「知的障害があって意思確認できないから」と手術を断られたため、セカンドオピニオンを求めて他の病院へ行きました。病院へ支援者が泊まり込むことで、治療についての説明をヘルパーと一緒に聞き、本人に伝え直し、彼女の意思や思いを医師や看護師に伝えることを提案することで手術に臨むことができました。それでも術後の経過は思わしくなく、最後は住み慣れた自宅でいつものように支援者と共に日々の暮らしを送り、通いなれたばかばかの音や声や人の姿をベッド上からオンラインで感じながら歩みました。

彼女の暮らしが、ぽぽんがぽんに多くの支援者を呼び寄せ、育み、これまでの法人の大きな原動力の1つとなってきました。また、彼女の生きたことは、多くの障害のある方やその家族、関わる人々の未来にとって希望でもあります。彼女の生きたことをしっかりと伝えていきたいと思っています。どのような形での取り組みとなるかはまだ決まっておりませんが、また皆さんと分かち合いたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

感謝の意を込めるとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。

（事務局 水野昌和）

今月の
内容

- ・ご報告
- ・型破りなアート展2024 参加報告
- ・各場から事業スタッフ紹介（ぽかぽか）
- ・知的障害者の自立生活 これまでとこれから
- ・ろくちゃんまちをゆく（東海道新幹線）
- ・事業終了のお知らせ／寄付金等のお礼
- ・編集後記



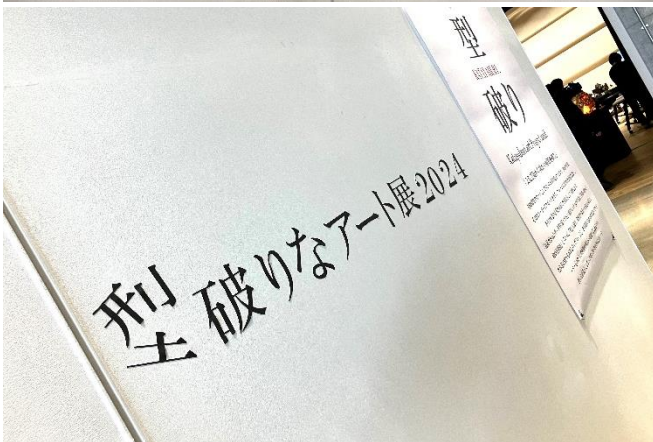
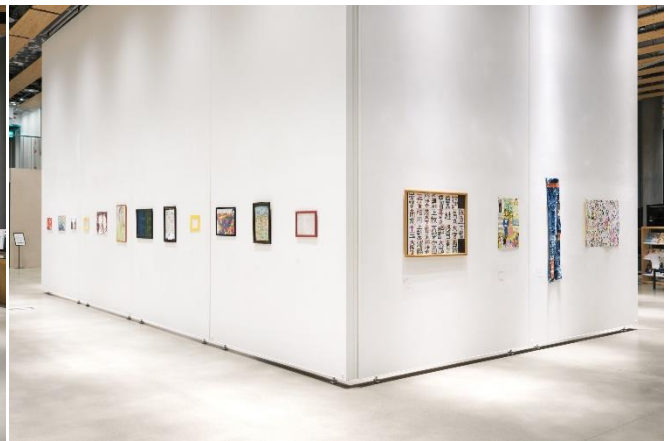
型破りなアート展2024 参加報告



2025年2月4日～7日、「型破りなアート展2024」が開催され、公募60作品から厳正な審査を経て、受賞作品が茨木市文化・子育て複合施設 おにクルで展示されました。

ぽかぽかで応募した作品から、

- ◆グランプリ：しのぶさん「A4」 ◆美術審査部門特別賞：田井明さん「金と銀と白」
◆チャレンジ入選：濱田愛さん「運動会」 林利光さん「会話」 村上仁宏さん「ローラー」
たくさんの作品が受賞する結果になりました。



ぽかぽかは、メンバーさんの作品を応募する立場だけでなく、アート展の運営チームに参加し、作品募集、審査会、展示設営、会期中の運営、トークイベント、表彰式、撤収まで、様々なことに取り組みました。

型破りって何だ…？ぽかぽかのみんなはアートがしたいわけじゃないよな…いや、アートって何？

モヤモヤ、わからんなあと葛藤もしましたが、終わって振り返ると、この「モヤモヤ」「わからない」って大事なこともかもしれないな～と感じています。

ぽかぽかの日常にも、たくさんの「モヤモヤ」「わからない」があります。

なんとか理解したいと思い、名前をつけたり、説明したりするけど、どうも空振りしているような…

そういう、言葉にならない何かがたくさんある。

それを「ぽかぽかの中」だけで完結させてしまうのは、何か違うような気がしていました。

今回のアート展を通して、ぽかぽかの日常から生まれた言葉にならない何かを、

「ぽかぽかの外」の人と共有できたとしたら、それはとても嬉しいことだと思いました。

(ぽかぽか 山根)





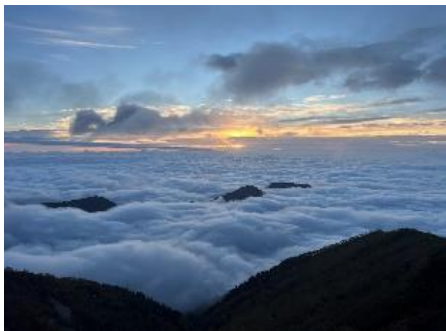
こんにちは。日中活動支援部門ぽかぽかの山本絢加です。
 ぽぽんがぽんには20歳の時に入職し、もう十何年も勤めさせていただいています(2年間の空白がありますが)。ぽかぽかでは日々賑やかで時にまったりと過ごしており、大変なこともあります。スタッフが話を聞いてもらいながら、メンバーさんの笑顔やツッコミどころ満載のコミュニケーションを楽しんでいます。入職した頃は単純に“楽しい”と思っていたことが、時が経つにつれ“楽しい”だけでは済まないことも増えました…個々のメンバーさんにとってどうなのか、と考えながら今後も対応していきたいと思っています。私自身、周りの方々に助けられていて完璧な人間では無いし、できたらのんびりしたい適当な人間なので偉そうなことは言えませんが(笑)。



ぽかぽか2階では月1回おやつ作りをしています(12月1月はお休み)。基本的に“自分で自分のおやつを作る”をモットーにレシピを選んでいますが、最近はチョコランチかホットケーキばかりです。チョコランチはメンバーさんからの要望も多いです。これは私が作った“KTM”のチョコランチです。

なぜ“KTM”かというと“ケツメイシ”というアーティストが大好きでその略語です。いつもおやつ作りになるとメンバーのAさんとのやり取りで、私が「今日はどんな形にしようかな～」と言うとAさんが「どうせケツメイシやろ」と言うので今日こそは違った形にしようと思うのですがやはり作るのはKTM。作ったチョコランチを見て「ほらケツメイシやんけ」というやり取りを楽しんでいます。メンバーさんそれぞれが好きな形に作られているのがなんかいいんです。なんか。

そして、こちらは趣味の登山の写真。低山から高山まで楽しんでいます。



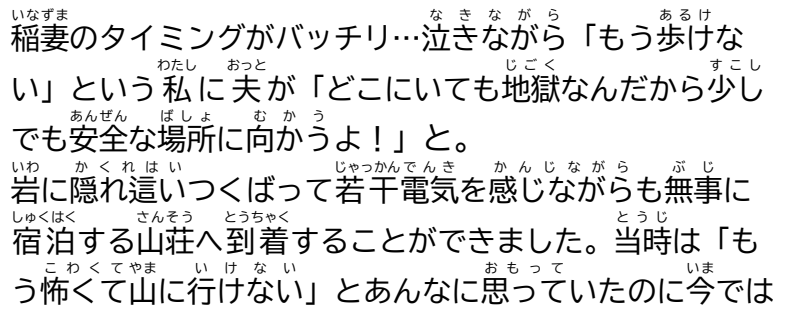
去年の夏、憧れていた穂高連峰縦走に行ってきました。山が好きなのに雨女…一昨年は台風で中止。今回も天気は微妙でしたが…

この写真(右)は前穂高岳です。今から奥穂高岳から北穂高岳へ向かうワクワクの時です。



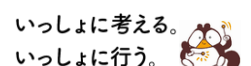
この後に天気が急変し、雷雨となり3000m級の山では身を隠す場所がほとんどなく恐怖。聞いたことがない雷鳴、光って一瞬でどこかに落ちる。





「知的障害者の自立生活 これまでとこれから」

ほどまえ だいがくせい おのうえ しょう しゃうどう で あ こと ご じんせい おお えいきょう う はなし
程前、大学生だった尾上さんが障がい者運動と出会った事でその後の人生に大きな影響を受けたという話



はじまり、2006年にぽぽんがぽんからもスタッフが参加した、自立支援法に対して見直しを求める厚労省への抗議行動が、後の支援法廃止に繋がった話など、ここ二十年の制度の変遷と運動の関連性が感じられる、とても興味深い内容でした。



自分自身、ヘルパーとして働き始めている間に見聞きした事もある、ホームヘルパーの利用時間に上限を定める案や、介護保険との統合案など、重度障がい者が地域で生きる権利を奪うに等しい法案に対し、主に身体障がい当事者の方が中心となり知的、精神障がい者や支援者とも力を合わせながら運動を行ってきた事で、重度訪問介護を身体障がいだけでなく、知的、精神障がいにも対象拡大する制度改正に繋がってきた事が、一連の流れで感じる事ができました。

運動、と聞くと拒否感や抵抗を感じる方もおられるかもしれないですが、もしあの時、当事者が運動という形で行動

を起こしていなければ、街中で障がい者の方を見かける機会は今よりずっと少なく、見えない存在として地域から排除されていた可能性を考えると、あり得たかもしれないいびつな社会のありように対して、個人的にはぞっとする思いもしました。

また、そういった当事者運動によって成立した制度が現在、サービスとして定着する一方、若い世代の当事者の意識が、新しく権利を獲得する方向には向かわなくなり、定まったサービスの範囲内でこの事業所を選択するかにのみ関心が集中しているのではないかという指摘も考えさせられる内容でした。

後半の第二部のトークセッションでは、現場で支援に携わる職員が、一個人として障がい福祉に惹かれていった経緯や支援上の悩みについて語られていて、内容は違えど障がい者福祉の現場でしばしば交わされている内容に共感しながらお話を聞いていました。

また最後に、運営委員でもあるぽぽんがぽんの太田吾郎が閉会のあいさつを行ったのですが、今年の2月末に亡くなられた、重度訪問介護を利用しながら自立生活を続けられていた、奥原さえ子さんについて話をしました。

病気の進行が早く、治療が難しいとなった事や、その中でも本人の意思を尊重し、緩和ケア病院に入院するのではなく、在宅で看取りの支援を行えた事についても触れた上で、法人として、さえ子さんが生きてきた足跡を自分たちのためにも伝えたいという事も訴えていました。

葬儀から数日しか経っていない事もあり、言葉を詰まらせながら話す太田の姿に、登壇者の方何人かが涙ぐまれる様子もあり、シンポジウムの中でも特に印象的な場面でした。

障がいのある方たちが地域で当たり前に生き、亡くなる事も含め、一人の人間としての尊厳が守られる社会であり続けられるよう、自分ができる事が何かをこれからも考えていきたいと思いました。(田井英一郎)

ろくちゃんまちをゆく NO.106



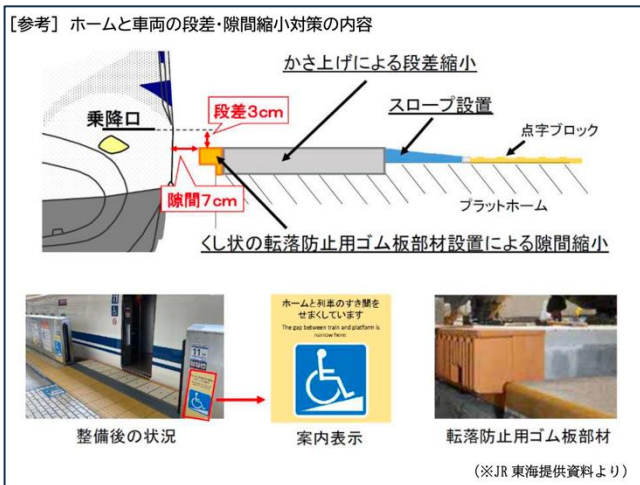
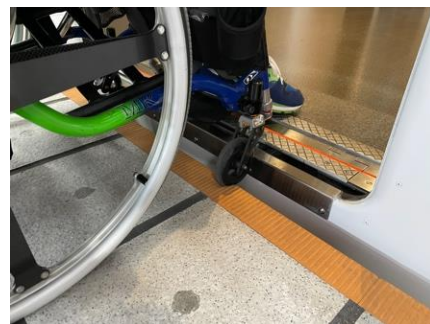
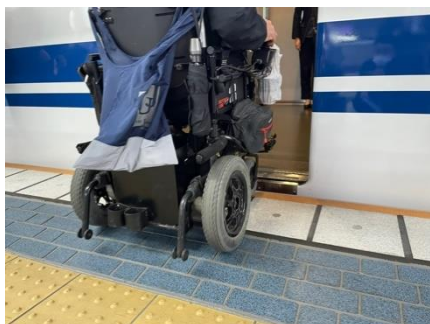
いつも「ろくちゃんまちをゆく」(通称ろくまち)を読んでいただき有難うございます。

気まぐれなところもあり、書かないときもあり、その時は許してください。

今回は、東海道新幹線の車両とホームの段差・隙間の解消について書こうと思います。

大阪駅、東京駅のホームでは、11号車の車椅子スペースへの乗降について、車両とホームの段差・隙間の解消がされており、その検証会が1月22日 新大阪駅26番ホームであり参加してきました。

検証会では、手動車椅子、簡易型の電動車椅子、電動車椅子が参加して、新幹線に1人で乗車できました。段差の振動については、私の電動車椅子では、前輪のタイヤが大きくて感じる事がなかったです。しかし、電動車椅子でも前輪のタイヤが小さいと段差の振動を感じる事もあります。また、手動車椅子や簡易型の車椅子によると前輪がさらに小さいために振動がきついようです。段差が1cmの違いで一人での乗車ができないこともあるようです。



図にある、かさあげ段差とスロープ設置のところでは、スロープが勾配になっており、手動車椅子の方にとって、スロープをのぼって、車両と段差を前輪を上げて乗車になるので、負担になるようです。スロープの距離を作り、勾配が滑らかな方が乗車しやすいようです。

東海道新幹線の職員さんと意見交換ができることは画期的で、次回の段差解消について生かして欲しいと願っています。

今後、ホームと段差・隙間の解消について進めていくようですが、現在では、ホームと段差・隙間の解消できているところは、大阪駅と東京駅の一部のようです。引き続き駅員さんが対応をしてくださいます。(六條友聡)



茨木市子ども・若者自立支援センター「くろす」および茨木市ユースプラザ「エント」事業終了のお知らせ

茨木市子ども・若者自立支援センター「くろす」は、15歳から39歳までの不登校・引きこもり状況にある方およびその家族等への相談支援事業として2016年度より茨木市から委託を受け事業を開始しました。また、2019年度からは新たな委託事業として、さまざまな経験や交流できる居場所と相談窓口を備えたユースプラザとして「エント」を開所し取り組んできました。

9年間にわたり取り組んでまいりましたが、2025年3月31日をもって両事業を終了いたしましたのでご報告申し上げます。

継続を望まれるご利用者のみなさまのご期待にお応えできず大変申し訳ありませんが、これまで各方面におきまして、お力添えいただきましたことに感謝申し上げます。

尚、2025年4月以降は、新たな事業者が選定されていますので、両事業の運営に関しましては、新たな選定事業者へ引き継がせていただいておりますことも併せて報告申し上げます。

ご支援、ご寄付、ご提供ありがとうございました。

2024年12月12日～2025年3月11日まで（順不同）

郵便振替の都合上、お名前が反映できていない場合は上記期間に限らず掲載させていただきます。ご了承ください。



社会福祉法人ぽぽんがぽんへのご寄付ありがとうございました
川崎様 埴淵様 小野寺様 金田様 高原様 塚平様 原田様 匿名の皆様

グループホームへのご寄付ありがとうございました！！

次々と故障が続く給湯器や冷蔵庫や洗濯機などに使わせていただきます。

まだまだ買い替えや修理の順番待ちは続いています・・・

グループホームにご寄付いただく際は、ぜひグループホームに寄付

とご記入をよろしくお願い致します！



ご寄付をご希望いただける方は

こちらまでお願いします

<払込取扱票をご利用される場合>

口座記号番号：00930-0-212299

口座名称：社会福祉法人ぽぽんがぽん

<口座振込をご利用される場合>

銀行名：ゆうちょ銀行

金融機関コード：9900 店番：099

店名：〇九九（ゼロキューナウ）

預金種目：当座

口座番号：0212299

口座名称

（漢字）：社会福祉法人ぽぽんがぽん

（カナ）：フク）ポボンガポン

つながりの会ぽぽんがぽん（後援会）へのご寄付ありがとうございました

【募金箱】坂本様 埴淵様 ファミリーマート並木町店様 ファミリーマート舟木町店様

餃子の王将阪急茨木駅前店様 相談支援部門様



アルミ缶・牛乳パックのご提供ありがとうございました

【アルミ缶】浅野様 古川様 ハシオダニ様 藤本様 竹内様 林様 井原様

GHピース様 作業所等へ持って来てくださった皆様

【牛乳パック】萬谷様 ハシオダニ様 小川様 藤本様 竹内様 GHピース様

GH多歌多架様 関西よつ葉連絡会淀川産地直送センター様

作業所等へ持って来て下さった皆様



へんしゅうこうき
編集後記

「どれだけ重度の障害があっても地域で当たり前のように生きていくことを体現した、ぽぽんがぽんの創業者の一人と言っても良い存在である奥原さえ子さんが逝ってしまった。

このことは、ぽぽんがぽんの歴史の第1章が幕を閉じるほどの大きな事だと思う。

運動として、事業として、ぽぽんがぽんは大きな岐路に立っている。

ぼくとしては、あるべき姿と現状の大きなギャップがあるなかで、あるべき姿を

見失わず、一歩ずつでもあるべき姿に近づけることを、さえ子さんと共に歩んできた

一人として、あきらめずに取り組んでいこうと思う。(太田吾郎)



- 法人本部、ヘルパー派遣、グループホーム窓口、相談支援
〒567-0888 茨木市駅前 1-4-14-3F Fax 共通 072-623-9203
法人本部 Tel 072-623-9202 (9:00~18:00)
グループホーム窓口 Tel 072-623-9202 (9:00~18:00)
ヘルパー派遣 Tel 072-623-9205 (9:00~18:00)
相談支援 Tel 072-623-9210 (9:00~17:00)
- いばらき自立支援センター「ぽかぽか」(8:30~17:30)
〒567-0850 茨木市真砂玉島台 8-20 Tel 072-635-5762 Fax 072-635-5763
- いばらき自立支援センター「どかどか」(8:30~17:30)
〒567-0842 茨木市五十鈴町 7-29-1FS Tel 072-637-6882 Fax 072-637-6883

法人 HP
<https://popongapon.com/>



UD FONT

み
見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

編集人:「障害者」の生活をひろげる場「どかどか」(社会福祉法人ぽぽんがぽん)

TEL(072)623-9202(お問い合わせはこちらまで)

〒567-0888 茨木市駅前 1-4-14-3F

発行人:関西障害者定期刊行物協会

〒543-0015 大阪市天王寺区真田山町 2-2-東興ビル 4F 定価:50円

一九九一年九月三日 第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・5・6・8の日)発行